

アベノミクスの未来

—その課題と展望—

第一生命経済研究所経済調査部首席エコノミスト

熊野英生くまの ひでお

- * 渴望されている「機会の平等」
- * 流れは実体経済重視の方向に
- * 難しいハードルとなる消費増税
- * 先進国で一番いい日本の成長ベース
- * 賃金は本当に上がるのか
- * 落ちる公共事業による浮揚力
- * 成長戦略は二本立てが実態
- * 規制緩和に資する国際先端テスト
- * 人材投資で決まる日本の国際競争力
- * 待ち受ける社会保障の構造改革



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、皆さんおなじみの熊野さんですので、改めてご紹介の必要もないと思います。アベノミクスが参議院選挙を控えて改めて話題になっていますが、厳正な目で本質的なことを今日は伺えるのではないかと思います。以前、リフレ派の人たちのお話もありましたが、熊野さんは日本銀行出身でもいらっしゃいますので、そこら辺のお話もあるでしょう。それから、参院選挙の後、経済政策がどういうふうになっていくかということも含めて、今日は頭をリフレッシュさせていただけだと思います。ではよろしくお願いたします。

熊野 皆さんこんにちは。第一生命経済研究所の熊野でございます。

今日はたしか5回目ぐらいの登壇で、いちばん最初、ちょうど10年ぐらい前に初めてお話をさせていただいたときは、単に声の大きいお兄ちゃんだったのですが、（笑）10年ぐらい勉強してここへ登壇させていただいているので、少しはお役に立てるお話ができるのかなと思っています。

さて、今日も暑いですね。この暑さは皆さんの熱気もあるのかもしれないけれども、外を歩いていると倒れるのではないかと思うほどです。私は、朝は徒歩通勤しています。実は3年前、会社に着いた途端、頭がくらくらとして会議室で意識を失ったことがありましたが、今年もそうなるのではないかと懸念してブレイキを踏みながら仕事をしています。年々、年をとっ